武江年表

自寛政元年
至文化十四年

七

内閣文庫
和書
三二七五九
八
一四一函
五架

210
閣

内閣文庫

番號	和 32759	
冊數	8 (7)	
函號	141	86

国立公文書館
National Archives of Japan

武江年表巻之七

寛政元年己酉　二月廿五日改元　六月閏

○天明七八年の頃より碑文谷法花堂の仁王尊堂新成就ありて貴賤男女参詣ありし事ありし次第は群集影うしゝ十二年ありてそ絶えり　若狭会

閏六月十七日より目白長谷寺竹生島弁才天観世音開帳

○二月甘露降　○米穀豊饒なり　○永代橋成田山不動尊開帳なり　其外諸社あまたなり　○浅草観音堂修覆　○五月十九日

そ〻て絵馬又日光ホもなりし

僧師入江北海卒名貞孫左衛門下谷坂本住人

○七月七日狂言作者鶴屋南北卒

○七月七日狂言作者瀬川春町卒道称倉橋寿平

○八月八日大風雨家屋を損ず　深川辺大水　○八月市谷光徳院内に川に湯殿

○角能人谷風焼之助小野川喜三郎横綱免許又九代能

と呼る南方面行る○十月より始り大川筋を外川と称る佃中洲築地
取掛せしも翌年ふりて元の水面となる○十二月廿一日夕より夜へかけて再甘
露降○深川寺町法華院不動堂流行出し行基の筆なり
○牟新杉代町本誓寺除地成り代地深川弓場戸田東女正殿屋敷
の地をたまはる○市井の閑談年々に盛なりしかど寛政より
享和迄の頃委しく誌せる地なれども尚寛政に次編に詳なるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日牟礼杉代町より出火砂村百姓屋迄焼る○三月九日西人劉安
生卒　号雲山森布　曹溪の法系○三月十日下谷稲荷社祭礼産子町々より出し遠物出
る　牟礼の時い花子の法度より出病除の　敬ふべき事なり　後中絶せり○水代寺に京都大仏の内弁才天閑談この
る境内見せ物ふ壬生狂言を出せり世に行れて面白き故なり　都前

の輩も酒宴の興ふられを学べり○神奈川浦賀辺江戸ふく閑談
而不焼天宝年　○八月十四日柏野栄川院典信卒　享一年○八月廿三日前白付点着
川柳卒　浅草新堀辺宮ふ奉仕川柳八同寺門前の坊正ふして柄井八右衛門と号し救命を掌る今ふ伝流ふて公の
緑亭川柳五世ふ及ひ柳樽の后軒年ふ不揮行せり按ずるふ宝暦の比武玉川といつる
能俗の句集あり世ふ俗信を述る川柳もられよく変せしめとあり
○九月六日儒師山中天水卒　二十七年名知足称猶卒　浅草行安寺ふ葬る　○十一月廿七日夜大地震
○十一月琉球人来聘　正使宜湾王子　宜湾王子　蕃船のるまで富士を見て泳る
○十二月二日夜甘露降　○閑田岡谷成　天明よりこの人俗名真雄を田蜀山
○琉球新刊　表為中良著　又朝鮮使も刊行せり　○磁器焼絶始る

同　三年辛亥

○正月十五日儒師平沢旭山卒　五十九才名元愷称五郎　保川法禅寺ふ葬る　○二月十五日より五十日の間浅
草寺観世音開帳○市井の法令を改め民間の費用を減じ倹令始る

翌年六月移植（折木向）町令所兵粮を剣進わり是米價貴踊のこと
或い不時の災害の物産民を救ふんがための　河仁恵あり○京師の子嵩堵
庵ゞ弟子中沢道二（系西陣系盛流居　竜孫久云説）江戸に来りて芳町に医師前田一貫ゞ
宅にて門弟を講じるゞ江戸に駐系集りる衣袂田相生町向の片町より参
前舎を建て講筵の不足に道二篇を作といふる書数篇拝を接て世に行
る（参考舎は今に相続と　深沢統る事か）○六月十日夜九ツ時より大雨雷交る○深川洲崎の後
塩濱松平豆州侯邸下邸と成る○六月加茂縣主季雪伯為任吉の社
号一碑を立る（始に系林の学の勅諭の事を述べて次に元禄七年川上正吉信称大坂堀伊云
説とりふ者徒ふ祝の濫ゞうしきを歎き正と貴賞の商人を十組に分ち往来の
船ゞとしるゞしめむるよおせふ勅あきを接て定めて洋中の海賊の害を除き
せゞと正保の比氏るともふとうて伊社をわとそうに祝をれるこうと云ことなりて来ふ哥あり
樫木の以後絶てうう絶いひてゝゆうむいさをし　北こん
○醫学教日講始る○堺町河岸あく馳るを見せ物とて（多くあるを之ふ石を
会ひ又吹炭ふ火を起

しるを食べ）○八月六日大風雨小田原辺より江戸近海辺を潮上る○町火消（纏張箱を
改白漆塗とする）○八月十七日麻布中村氷川明神祭礼出し（練物ふ出る　休
○八月廿日暮方より雲出海鳴り暮方より大風雨明七時止む
○九月四日大嵐昨夜中より大雨南風烈く八月より強し已刻より潮深川
海嘯（漲りて海を出べし）入船町久右衛門町弐丁目武丁目と唱へ右衛門
町ふ逃つゝもる町家住居の人数と共ふ一時ふ海へ流出て行方を知ず
兵庫天社横ゞ拝殿別当不ふ外流失せるしの浪ふ強く新橋塩濱一円ゞ
つぶれ民家流失せる外洲方家屋吹損し川ゝ溢る畫時ふいろう潮引く関
東筋ふべく洪水なる（諸ふ云蟹陸へ多く這上る深浪の　北こと以ち既ふ多りといろうべし）潮騒の地を居る浪の変
計りがゝしを西の入船町浪東の古祥寺門前より取る迄凡長弐百八十五間余の
家居を取ちひ畠地より一変る（此内西のゝ入船町迄ハ　始仁氏著述載有事と云り）○九月十三日能人妻秋産

白雄卒（名長恭麻布天生寺に葬る法号を義氏）○九月廿七日儒師松田牡齋卒（名長恭麻布
○神田明神祭礼尚年々より御雇山二組と成る（享和より経業あり振文化年中より踊りはじまる　附録八年中より踊りはじまる）
（後年は御山を廃して七本の踊練物出る）○十二月九日田向院一念寺に葬れ永代
ちゐおいく流行流死の者施餓鬼修行す○十二月十四日十五日神田社年の市
賑る（後年廿日廿一日に改む）○十二月□日下谷大事○（深川洲崎名物の荒そば九月寺院の
後年廿日廿一日に改む）
寛政四年壬子　二月由
二月初午の日芝日比谷稲荷祭礼隆子町こより出し練物を出す○二月七日
麹町火事○壬二月六日詩人安達文仲卒（名脩号清河三の編　芝西久保に葬る）○四月のはじめより米價
騰揚す○五月十四日新井白蛾卒（字伊祥称孫吉と云　易術に名あり）○護国寺に秋父三十四番
観世音開帳○六月十日山王御系礼附系二組と成る（神田に同じ　されど江戸雇多く
市ヶ谷の外に　麹町外武下より出る）
これなり）○六月餅鳥孫安側（町今所数義を建る是迄大的場なり）

○六月十八日亥刻光物西南より東北へ飛大さ盆の如し○七月廿一日飛火
梅孫安の梅舊根焼失せるよし江戸砂子に書入といふ是年なり
○七月廿一日南大風已上刻麻布并猫より出火流土今井谷赤坂青山紀ノ谷
合羽坂麹町　番町飯田町小石川御門小川町二丁稲荷の社辺迄焼亡　此後
番町麹町の裏は火除地出来る（此時迄番町は天正年中の家作也とぞ）○牛込神楽坂通西側の山下
何某殿邸あり全除の柱木孫石孫なり全一ツ此時麹町の善國寺と肥田
何某の邸は焼れ後又此孫安町家と改まり○八月十二日西人松林山人卒
大川ぞこ　○西本願寺御堂再建（紀州和歌山様中より寄進若干三十二万五千八人を別の名を指来る代々ふ建る始しき建方とい一所
書間口十八間奥行廿九間　翌年九月成就す）○谷中感應寺（今天王寺）五重塔出来九年二月廿九日焼る後
今年再建あり○十一月七日儒師千葉芸閣卒（名宗之称養安号　千葉木綿屋ちゐ葬る）○十二月八日
浮世絵師勝川春章卒（浅草西福寺に葬る法号恵光院春好美英居士美山妻徳妻林妻徳妻玉安麻教居あり）

○十二月十八日下総八幡八幡宮社内榊の古樹を掘穿るに古瓶を得たり高三尺
深り二尺二寸元亨元年酉十二月十七日別当知田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若宮ち吉年火除の為地を石上られ神楽坂に代地を
あたりけるが今年二月番場成就して廿七日毘沙門天遷座あり○二月浅草寺
奥山ふたたび桜数株を栽る○三月六日より茅場町薬師境内元房州繞
が蒲西行寺西行法師像開帳○榎坂神明宮内天満宮開帳○五月より
九月まで江戸霖雨大川出水○五月廿日書家荒木呉江卒号東水九山長寿ゆえ葬儀
○九月先達て魯西亞漂流して帰朝せし伊勢白子の彦兵衛太夫儀吉江
戸へ来る天保二年十二月駿河神子元島に漂流せしと云ふ後吉今年廿八才なりしが内外の様
程なく死して重太夫今年は十三才阪田町の河某国にあり後若年を保てりと聞く
○十月廿五日湯島松平雲州侯江別館より出火神田豆腐町石町堺町

葺屋町芝居日本橋辺迄類焼す○十二月御茶屋下町孤の内須田町
二丁目小柳町平永町小北例を取掛り是外神田小代地を賜り明地中
成後小数蔵を建らる町今所数蔵の○月日不知儒師原敬仲卒名恭胤雙桂の二
諭号尚庵明和四年九月廿日卒けるもふ弱迂古祥なる中男子又雙桂名八
川泉ちふ葬儀ちふ漏せしあるこふ為るに

同　六年甲寅　十一月同

正月十日未中刻麹町五丁目秋田孤仙果といふる酒屋ちり出火烈風にて
山五河社永田馬場霞が関虎河門外桜田辺諸侯藩邸数字類焼幸橋
河門焼尽宿下日蓮町新橋芝新孫屋仙蔵金沢家小一円焼亡せり
○正月浅草仏人金羅卒号梅西堂号ふ葬儀○二月廿八日儒師吉田子方卒根岸
若性ふ葬儀○三月幸橋河門外兼房町和泉町飯沼町伏見町若右
衛門町久保町左右ち町内火除の為町家を取掛ひ異地とせられ

尚時の所なれば武家地なるべき在〜を外へ移されて代地をあたへる

○川口善光寺如来開帳 糸清翠集〜て川口の渡〜船震り怪異人多くなり

○四月二日亥半刻吉原江戸町弐丁目より出火一廓焼亡 仮宅田町聖天町山の宿元町迄出る

○四月十七日青山梅窓院主菊山和尚寂 詩及ひ書よくせり ○四月廿七日儒師菅野谷徳卒 名義直九山 ○六月十日儒師街道聖卒 法華宗 ○八月十九日 四宮宗小菓 ○八月十九日國学者林諸鳥卒 林和助号梅居士備後院の孫男也也校とふ文化五年卒 ○秋半所〜の橋溝口内匠製造して橋梁堅〜〜て抗る也奇巧なり 文化五年卒 ○十月晦日浮人伊藤松軒卒 号倚松庵青山梅窓院小菓 ○十一月三日子刻大地震 ○十一月四日象刻蔵六居士卒 京新吉山寺小菓 ○十二月廿九日特野永徳高信卒 狩川浄名小菓 ○江戸地図巡板所を定む 第弘化不日板行の ○四神地名録写本成 古れ彩黄薇山人編輯 左郎の名也記なり

○出羽国より大童山文吾郎出十一才肥満して廿二貫目あり角力を取ること年長ずして弱くなれり ○當道大記録成 写本一冊 一ツ目弁天社役 浅草源兵衛

寛政七年乙卯

正月九日谷風梶之助終 号六才仙蓋 長谷川 俗称 名勝 力元年 ⑪正月十日西ノ丸炎上 市谷御門

○三月十八日より六十日殘まる親世音開帳 風雷神門再建成る 三月十日亦七安宅 ○六月七日儒師清水江東卒 卒七十八 谷の商家大坂屋 号とふ人文英述ちなり ○六月十五日夜大雷廿七ヶ所に落るとぞ ○七月八日儒師市川雀鳴卒 名匡 称文門 卒年未 西宮光明寺小菓 ○七月十三日星月を貫く ○八月七日梅御軒重明卒 称俗田 永とふ上州 杉井田の産 市の住人 師の門人なりて和学の名あり 寿七十三 谷中天王寺中の僧 ○八月十五日深川八幡宮宗教花子町〜なり 名衛奥 称左兵衛 本中の名 徒なる小菓 男也 吳山とふ

○秋四代米穀價登揚 ○九月廿一日青山久保町熊野権現宗教花子

町々より出し絵物を出す○十月十二日太田大洲卒 七十才名浩元中所大洲の人なり
かなまゝ多くしる人なり

寛政八年丙辰

正月白牛酪麦弘の事を命じ給ふ 享保中青州嶺岡に白牛を放養せ給ひ白牛酪
製法を命ぜらるゝに依て投斛の乾酪を製せ給て諸〳〵世人を救ひ給ふ 御恩澤あり
とそ寛政壬子正月桃井源寛白牛酪考一巻を撰し梓み行へり

○二月小谷中感應寺火開帳○夏矢口新田弘祐寺帳○芝泉岳寺
釈迦八相曼荼羅開帳義士の遺物をとらせ給ふ○四月十二日狂哥師葉楊菴
光章 称岸宇高つ弱迦瑠巻寺に葬る ○六月九日名越明神奈礼神輿を渡し給ふ 絵りの
ふね〳〵うつる甚後中絶す○六月十四日書家澤田東江卒 六十才称鶴一号玉函
山人称文二郎とゝ称す
親ちゝ称す ○九月幸所に古刹修立帳建つ○十月四日孤阡軒湖名貞雄君卒
八十一才古実考まとめ又江戸地理の古編集るなり
江戸城行るゝ葬る
副使 安村親方 柴野彦輔琉球人と
茶法給者あり ○十一月琉球人来聘 正使 大宜見王子

○十二月六日儒師黒沢雄岡卒 名萬新 称右仲
八十四才

同 九年丁巳 七月空

二月廿八日粉野洞春卒 名吳信 上総
後に院に葬る ○春三田魚藍観世音開帳○松浦江
の島弁才天開帳江戸より諸人多し○四月廿七日画人三輪花信斎卒 名八
猿を写す名猿小さきもの河猿の年号なる小田猿を画き
題もつゝ今に見えたり 四谷勝専寺に葬る
牡丹花某小青と咲くこと稀集せり○六月二日狂哥師英小戯作者の
唐丸卒 若盛堂三郎と云絵草紙やと ○橘の異品を美ぶ事流行 橘品 異橘品記考に
山谷正法寺に葬る 接ぎ木す
○七月六日大雷所〳〵に落る○七月十日中村佛庵景連 書を能くす
そ社子宗錫を伴ひ渡唐する新世言へり清〳〵的紅中天川の辺に〳〵水面に
天満宮の木像を切て享和元年深川法禅寺に安置す 祖天満宮と称す ○七月廿日
古実考真野是義卒 名安邑称七郎兵衛 翠町に住す
人の頸取を命ぜらる○十月廿二日義崇家臣義郎向伝久宮町の夫みや

より出火某所堀の辺より大川を越深川宮城八名川町へ飛海辺彩田木場迄焼亡○十一月廿二日武器古実考排系香山卒 名長俊称一学爺天保元年中了儒ち本義に
○十二月十八日醫師宇田川玄随卒 名晋号槐園世彩る中妙院と号男を玄真と云 ○十二月廿一日俳人妍高津富卒 卒七十八才今戸 芙蓉と号本義 ○東海道名所圖會六冊梓行 狂里雜爲著 名家合画
○和漢年契一巻梓行 狂州の人高昶著大本本二冊あり又寛政十一年彩刷の人ふて惠光子編和漢年代撃要一巻を梓行す

寛政十年戊午

改暦頒行寛政暦と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日ふ五十日魯彩一学堂と号七十二才 ○四月金彫工六森英秀卒 号一渓歌 ○五月朔日名川神より鰊上る長九尺巾三尺余餘あり 此何日のものなるや詳かなる事能はず 丙焼肉山の上ふ乳竜を以て大佛の像を造り狂油遠ふ日えるとそ ○六月廿六日医師人見卒良卒 本府本法寺中 本妙院ふ葬す
○六月廿三日画人梅里山人卒 名西湖瓦師なり 中の名成称る本義に ○七月より深川新大橋の向ふ勢義を建らる此府の所家半迄背所の辺より代地を切り〳〵ゆく今の半迄岩戸所之 ○九月一日儒師岩田望職卒 卒八才 爺大雅る本義に
○九月十一日狩野永貞巻信卒 ○十月廿八日茶人守極宗極卒 号彼月菴 西ノ丸本義に
○十月廿九日初夜より星空く落んく夜まで絶ふ至りて大空の乳毛一面ふ雲の落るゝ如く見えし〳〵 ○十一月三日昼星の落ふるゆの如し
○儒師岳麻谷卒 名之浩称弟栄義 七十二才 月日不詳 ○十二月十二日狂言師朱樂菅江卒 六十一才 秋山傳 名文平迄千緒所ふ住青山青原る本義に 辞世 執筆の名や婆婆ふ残るん告郭の燈文科の月

同 十一年己未

正月廿九日三河町より出火神田辺町極焼亡以此後鎌倉河岸町極ゝ十間通り繰ひ出る成る同不日巻狂還廣る ○二月十五日三圍稲荷開帳 奉納道り物ふ〳〵り日宰相白木極より文寿紙ふて作る牛馬本黄の木偶を収む開帳の所物ふ宗を〳〵ゆく次の始ふり条情奉納ふる事ふ〳〵

○聖堂御再建境内廣ぐ大度落成○湯島風閣寺富山修験解脱　青山久保町に移る湯殿ふのりし亀有町糀町に代地をあつらへ此時あり

○三月後行者千面年忌勤して神奈川井の辺に湯る○霊岸島理立地ふ蝦夷地産物会所建□ふと　○夏寺院村法泉寺新長ふ勅を開帳

○六月四日より谷原村縁間の辺長命寺　秘密所　とりふ　内讓ふの稲人の面ふ彫る

見物多し○七月六日夜大雷ふ刻ふ大雷雨○六月十九日儒師佐久間文示卒　名維章　号山　文示号ふ華也　○八月青山海蔵寺檀家和泉孫左衛門家ふ一件五尼なり刑罪の首級六百を浴く當寺ふ葬供養の塚を建る

○十一月十九日夜七ツ時より大雨大雷数ふ雨降る

寛政十二年庚申　閏四月

○四月廿六日夜谷中いろは茶屋より出火近辺寺院多く焼る

○二月廿三日麦半刻田圃龍泉寺町より出火吉原京町一丁目廓中焼亡　仮宅田町

聖天町山之宿角町　鶯谷町横山町　○七月朔日より護国寺ふく秩父三十四番観世音開帳

○四月廿九日開其寧卒　六十八才　称源蔵男恭の養子　小日向称名寺ふ葬る

花縣卒　六十五才　実秋谷と号　麹町ふ住る　ふ葬也　○五月十一日官儒服部栗邨卒　五十五才　名保命　称若蔵

○銀座常是張座町より蛎売町に移る○九月十日唄うたい湖出市十郎死　谷中妙福寺ふ葬る　○十月六日金雕工菊岡氏祖光行卒　年　○閏廿日書家依田東川卒　名義之　字不詳　法恩寺ふ葬　○十二月廿七日書家稲葉華溪卒　五十才　浅草西福寺ふ葬　○江戸住古図説成

写本　大抵分長巻　○今年富士山（女人の来詣多し）○浮世絵類考成　写本一巻　山東京伝著

巻毎ふ邦教追考也　○浮世絵類考成　写本一巻　山東京伝著

浮世絵ふ大体又武ふ三る也人の事ふ也又武ふ三る也人の事ふ也　浮世絵ふ大体又武ふ三る也人の事ふ也　英一蝶　宮川長春　ふ代始祖　江戸ふ名人多し　文政寛政ふ

剛人刷人の上手出て巧を尽し次第ふ更雅の物出来て方物の外一とおれり　浅草ふ住る

ども江戸ふ及ぶ

此年間記事

毎月毎日上野ゟ大師遷座の時参詣群集する事寛政の頃より始まり
此時代名家△儒家山本北山亀田鵬齋細井平洲服部栗斎柴野栗山
古賀精里新井白蛾（易術ニ）△画家髙嵩谷谷文晁董九如長谷川雪嶺
鈴木芙蓉森蘭斎△狂哥師唐衣橘洲尚左堂俊満（又浮世絵をよくし）狂哥堂
真顔六樹園飯盛蜀山人芍薬亭長根△浮世絵師鳥文斎栄之
勝川春好同春英（九徳斎）東洲斎写楽喜多川哥麿北尾重政同
政演（京傳）同政美（蕙斎）窪俊満（尚左堂と号狂哥師なり）葛飾北斎（狂哥の摺物読本に多く画く）哥舞
妓堂艶鏡栄松斎長喜栄陵斎春童田中益信古川三蝶堤等琳
金長○又狂哥或は名弘の摺物に剞劂人刷工の巧をつくし花麗を極る事此
時代より盛なり○曳尾庵の我衣に蘭学医の始祖といへる中川須庵志源々
ありしかど果さずして後奥平侯の侍医前野良澤（号蘭化）に半ばひろまり其門

人杉田玄白宇田川玄随桂川甫周大槻玄澤出てより大に著しく
此道ひろまりといへり○浅草寺随身門前の茶店難波屋のおきた薬研堀の高
島のおひさ芝神明前の菊本のおはん此三人美女の聞えありて艶勝をいと
もてはやされ人引もきらず○吉原扇屋の名妓花扇老母に孝ある聞えあり来舶
の清人費晴湖紫陽ありてこの孝娼妓が事を聞きて是を賛しる詩あり
曲亭の燕雛の記に載たり○婦女のかんざしふくてびらかり始む（延享中始りしが又八年頃よりはやり）
○堆朱染衣類行はる○鍔画の銭を行はる○いつの頃より始りしか西が原
に湯島の牡丹屋太右衛門が別荘ありて花壇に紅白の牡丹英を植て其ふ
盛の頃貴賤群集せり（文化の始に絶えたり）○酒楼に於て書画會を催す事此頃
始る（近頃名行の名家書画諸に書画會は寛政の頃鎌倉の僧曇瀬といふ者のより始りしといへり）○児童の玩ぶ切り組燈
籠を上方よりの物なりしが来の生洲大坂の天満祭の図様を重板せり

寛政享和の比蕎麦政美多く画き又北斎も続ひく画り文化おいくり
奇川國長豊久氏伎ふ工風を凝し数多く画き出せり是様今よりいくく
年くに増出せり○人物を戦山水を俳諧象を四角に画くの技を行ふる
書翰等を彩色を施ものも商人の賞政の事より始る○寛政十一年の春より王子村料理茶屋海老や扇屋又
せ刷きあり○是双紙の事寛延宝暦の比多く古の合戦武功の次第或敵討宮の類をつや童児の
戯読多くして明和安永の比より世上風俗の淫慾男女の情態をのべる編輯多く此事厳
大公世を治れ初雅のまを改て人事を基とし美を功拙を論し治日の法と為ふに至る寛政より三の名山東表伝
是を一変せしめ勧懲を旨とし多く他事をその内善悪のさまを殊に行はれしより

享和元年辛酉　二月廿日改元

正月十四日俳人椋茶菴卒山梅人卒　大久保泉福寺に葬る
卒　名孟思　椋梅　法源寺に葬る　○二月二日茶人千柄菊且卒　西河岩間の坊に葬る　弥門法禅寺中宝珠院に葬
流剣術師中西忠太卒　根岸吾妻の森に葬る　其伝碑文に記せり　○二月十八日より十五日の間浅
草の観世音開帳○亀戸天満宮開帳○目黒不動尊開帳○四月より

深川法禅寺にて武州熊谷寺弥陀如来蓮生像に開帳○五月四日大雷雨
三昼夜○五月十七日官医京纪永寿院元徳卒　七十才　名元惠　号蓮嶺　卒塚　城官寺に葬る
○六月十二日板橋宿板橋水車の下より奇魚を獲る長五尺一寸　横二尺
厚四寸ばかり僅に三寸餘巨に微月ありて独身色栗のごとく黒点斑あり
○六月十六日より田向院にて猿山家清源寺釈迦如来開帳○六月廿九日儒
師細井平洲卒　平賀　名徳民　号如果　称甚三郎　○九月十八日唐人蘭秋森文祥
卒　小越の人浅草寺に葬る中村清右衛門墓を　男を蘭暁文良と云医師なり
○茅義孫卒　学問所御板行　○十月十九日夜元飯田町焼亡
○十一月廿五日夜神田蝋燭町より出火十四町焼す

同　二年壬戌

二月廿五日麦神九百年御忌○稲荷町辺天満宮開帳○二月廿八日より柏木

村田熊野薬師如来開帳○二月より四月に至り風邪流行窮民へ施救米銭を下さる　俗にお七風と云　八百屋お七の小唄流行し故なり○三月八日より木下川薬師如来開帳○同十日より根津社地に在る上野尾天神開帳○同十五日より目黒祐天寺開帳霊宝を拝せしむ○三月廿日笠間巨山卒　石場橋の側に住せり小川破笠門人にして又画事にして俳諧を好く画をもよくせり今年六十七才にて終る○四月朔日より渋谷金王八幡宮開帳○五月十八日富本豊前掾死　中の丁成林寺に葬る○五月本の元才蔵といふ人焼絵を再興し今席を設く

焼絵へちいさき鉄を焼て画くなり濃淡自在にして筆にて画るが如く背もありけるが長くたえたるを起したる由なり『めづらしく焼絵のやきを元にかへしておこたらぎそこなひ給へり』又資鉅といへる人の古き器を得て才蔵の風流の人にしたしく古き物を好む事の細工をあはせて琥珀の琴を作りて之を蝉と号て冰のこゝろある集ひも此事より始りしがや又一弦の琴を弾けるひとのなすなひる『めうらしき琴の音やをさなく一筋』才蔵一弦の琴は延享の頃須磨にて作りしより始まり名あるを河内国金剛輪寺覚峰律師その秘曲を伝へし其後の事は授られしより才蔵これに及ぶ文の友にして文化の中頃六十余才にて存生せしが終りせしが焼絵は今にその技を伝ふ物ありて世に弦筆と号せり○六月霖雨七月に至り本所深川辺洪水　両国橋落る大川より舟に乗て通行成る　武州権現堂堤押切となる

○七月十八日狂歌師唐衣橘洲卒　七十六才称小島源之助　下谷本法寺に葬る○七月廿二日画工董九如卒　名流称林八号田宝　寿寺に葬　長崎川居士浅草法養寺に葬る○八月十二日儒師高原子行卒○九月廿四日小石川白山権現祭礼雑子町より練物出る　年浅くして止む○十一月十九日夜六時過より牛込辺焼亡○十二月五日深夜より麹町出火夜明に至る迄焼る○同十一日根津門前茶屋町焼亡○賊のいれずみ成　写本一冊森山某の筆記なり延享寛延以来江戸の風俗を記したる書也巻末に寛政の比迄記す今此書を見るに昔を今に移せる趣あり

享和三年癸亥　正月閏

閏正月攝州東生郡九条村より白雉を献ず○二月儒師岳東海卒　六十九才名融称太仲○三月四日暮六時過大地震○三月より浅草本泉寺にて相州星降山妙純寺祖師開帳○四月より六月に至り麻疹流行人多く死せり○五月五日黄昏西より東へ一筋の赤雲横たはる○五月廿八日より下谷稲荷開帳○同日ゟ

浅草の中梅園院と相馬大山葉祇泉寺安親世寺開帳○六月朔日より
田向院と物乗光明寺雷電観世寺開帳○同日より浅草伝法院ゟ信州
善光寺如来開帳○同十日より廿日の内辻番才天開帳
○六月十日小学者中澤道二卒七十九才深川猿江妙善寺に葬る○六月廿九日国学者大塚
嘉樹卒（号蒼梧 七十五才 浅草本願寺に葬る）○詩人永原九渠卒（八十三才 名伴與 株木氏 芝増上寺中寺院に葬る）
○七月高嶋漢信宜狸の図を画く浅草観音堂の外陣に掲く
○七月朔日より浅草寺中金龍院ゟ相馬大圓寺釈迦如来開帳
○同日より永代寺ゟ常陸国阿波大杉大明神開帳○七月より東本願
寺ゟ水戸碧瑞軒に入る如信上人像開帳宝物多し○七月朔日より浅草
寺内心福院ゟ越後頸城郡居多社大国主像開帳（宗居養日の九の名号を授せり）
○八月桁原遊の例に物蔵を造らる○八月谷中延命院住持日道伽藍

を犯し厳科に處せられしと聞えし○十月朔日伊豆大島焼二日江戸中
灰降○十二月挿花の師笠義秋乱る辛（八十六才 翌年七月門人浅草寺奥山に葬る 子孫大人の文あり）
○後に昔物語成る年表○寒中寒（遠州の産 浅草の宝蔵寺に葬る 朝日十五世日午の日開門之）
浅草園立花貫斎下濃結る大節稲荷社利生のあらたなるより江戸
兵近在の花売来り集る○駿州三保松原奉納物山の如し道路ゟ酒肆茶店を別て張ひしぐ一二
年ゟ自然と止む（其時の手紙一枚 絵本 奥の手 ありし文化元年抱一上人 画会の時『絵本かくらべ』ひらるゝ式 太節ゟ愚拙ゟ愚拙ゟ）
○群書類従板行 六百三十六巻 塙検校輯義板あり 此節より遅く不上木成、

此年間の紀事

小金井村の桜寛政の比い詠る人もありし由古松軒が四神地名録ゟ記
しゝ享和の比より雑人墨客多く集ひ来り毎年遊観の不ことなれり

[illegible]の冊子一枚物
多く刊行せり

[illegible]なる[illegible]の海苔うさく[illegible]の雲仕中やくわのひ[illegible]ち　千蔭

○[illegible]家[illegible]今行る○山東京傳曲亭馬琴ゴ漢本[illegible]双帝行れて自く
数篇を稗行す又京大坂より画入漢本新作ハ[illegible]行て江戸へ下せり
[illegible]江戸戯作者ハ式亭三馬・六樹園・盛小枝の[illegible]絳山翁又[illegible]歌醜陳人　感和亭東武・
十返舎一九・振鷺亭・渟洲楼馬琴・高井紫山・山東京山百樹・芍薬亭長根・
柳亭種彦・梅暮里谷峨・神屋蓬州・南仙笑楚満人・東里山人・東西奏
南北・[illegible]外多く　京大坂作者ハ栗杖子鬼卵・合浦亮月・優々彼・柳浪・文鷹・水の編・色
画者ハ石田玉山・月川人二世・呂田玉山・青陽・舟岩国一・峯舟・丹羽桃溪・
合川抵和・松好・[illegible]・京川巻秀・遠水基晴・舟水・[illegible]・舟水画入[illegible]
[illegible]自ら著述のよし[illegible]数十部あり文化ハ[illegible]
仕組むるなり　江戸源世絵師ハ菖蒲北斎辰政　始春朗宗理[illegible]
[illegible]れ[illegible]　後ハ北斎戴斗と号す　歌川豊国・
仝豊廣・歌川小馬・雷洲・葉画を[illegible]　盈舟北岱・閑く楼小嵩　後柳川　小寿　源絵　上毛

[illegible]岡北溪○北尾憲舟・[illegible]画式と号す　源世絵の[illegible]画を工夫せ[illegible]彩色物
の彩[illegible]数篇を稗行ス○源世絵師三代の絵[illegible]書信といひ[illegible]の長絵ハ[illegible]
蘭画を学ひ後江戸ハ[illegible]世よ行れ名を司馬江漢と改む又銅板を日本
ハ[illegible]創せるも此人の功ス　○[illegible]近山水の遠系を画ク一枚絵を　○享和ハ京京作の編る
近世奇[illegible]考・[illegible]董集二部の随筆世ハ行れ[illegible]ハ新載ま[illegible]
戯作者各随筆を[illegible]事始[illegible]ハ[illegible]
野鄙[illegible]の[illegible]　○原舟月・雛人形の製を改て古今雛と名づけ世ハ行
[illegible]　○享和中ハ[illegible]栗鳥といふる人寺島村ハ花園を設け四時
の花を栽く遊賞の所と[illegible]奥州の人ハ[illegible]　[illegible]平　江戸ハ[illegible]世ハ住し
天保の始終れり　栗鳥始ハ人名つけて[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]の寄ハ　[illegible]

[illegible]　美濃
[illegible]　自寛
[illegible]
或人の説に此地の書肆を多賀屋喜兵衛といふ昔富氏多賀三郎左衛門有之三郎は三郎の人住る所なり其後法泉寺[illegible]
○北漢子獄に入れ手獄宿[illegible]出る○鼈甲價次第に貴くなりて[illegible]
賀物の櫛笄を製る○義倫の戯作に昔八重紙を切板に串を四ツに刺て
夫婦の如くにして[illegible]に玉簾の新乃姿を九尾の狐に習ひ酒
顛童子を思ふ[illegible]の彩[illegible]
鏡といふる目鏡を拵ふ〜ヒイトロ〜勢左の絵をの久自立に働らきするの立夫
〜写〜繪と号して具字する是より此業世伎に[illegible]
[illegible]も[illegible]なれり　此頃樂今[illegible]永元年七十九才　○山谷町八百孫若に新が
[illegible]戸物町に住せり

料理に深川土橋平清・下谷龍泉寺町の駐車場の文化年中より盛なり

文化元年甲子　二月十九日改元

二月四日より柳通院門福聚院大黒天開帳○二月十七日亀戸天神
西宮より東に白き雲出る○三月朔日より深川八幡宮開帳○同月五
日より洲崎弁天開帳○三月より護國寺観世音開帳あり四月十三日
西人北斎本堂の例に於て百二十畳敷の紙に半身の達磨を画く
○三月十五日より田向院真祐大師霊宝開帳○小日向大日坂妙見
院大日如来開帳○三月十九日後藤氏十代桂紫卒六十才○四月十五日
妻恋稲荷の神開帳○同日より浅草法水寺観世音開帳○四月廿日
三日の夕十一代目中村勘三郎死あて遺言に寛永元年より
八十一年あり　○六月朔日夕七時俄に大雨雷霹靂大に人々魂を飛ス　此時雷羽下あて
七才の女児を空

中（巻上望日死脱）江戸川より上る ○八月四日俳人素健卒（二十五才俳諧を好し方々に旅宿）去信ちの弟 ○八月廿二日画人高嵩谷卒（七十五才名一雄号房総谷 浅草西福寺に葬る）

○八月廿五日云々一卒（六十三才俳諧を好し方々に旅宿 奇人伝の編あり谷中長久院に葬る）

○浅草藪の内南部駒の市毎年ゆくゝ尚年より止む是より後八月頃迄

番内（芝区）○十一月廿二日画工佐脇雪卒（名貫多称倉次号中岳堂浅草誓願寺中村名院に葬る女也英之と号る画ふ画ものとく）○今年諸国巡熟く

文化二年 乙丑 八月国

二月十五日より根津権現年忌十一面観世音開帳 ○三月八日より谷中一乗寺祖師開帳 ○同十日より巣鴨戸塚（ゆゝ）天祖西明清涼山金毘羅権現開帳 ○同十二日より田向院の青山若光寺如来開帳

○同廿三日より永代橋の玉川弁財開帳 ○同廿八日より巣鴨戸塚観音開帳 ○二月芝神明宮境内より勧進角力あり此時十六日八月月奥行

日水引といふ角力取終の者と空場ふ及ひ四つ車一人加勢して大勝せれる

ふゝ（閑）絃ふ乃人 ○三月中旬京都芝居桟敷ふく出花の女あり

芝居主ふこれを告兆として祝ふと云 ○四月彼日ゟ南ふ川海雲寺千鶴荒神

開帳 ○五月俳師神田菴小知西国巡礼畔の柏戸ふ於て八十八齢の賀宴を催す

仙人沈潼朝霞の氣を吸く長寿し我ち

有 雲や吾養ひの生ち花 小知

○六月七月雨ふ ○六月十九日生麦村四の川巡礼あり此時人骨出る多し是古戦場の有ものとて □ の善悪不分れば枯骨也

浅草華龍寺収め墓を築しふ諸邪成拙ちよゝ云ふして七月より

来清群集する事駭ゝ（三月ゝゝ来清自ゝ止ゝ） ○八月七日篆刻家島篆斎卒（本不法 思之不葬）

○八月廿七日儒師神谷東渓卒（名謙称弥兵 田南学舎に葬る） ○十月十七日書画巧金

定河津定迪卒 法の妙なるを義氏卒後の人なれど夷尾高木会客なりし人なり職録小録の編あり ○十一月深川三十三間堂再建成る 享和年間の二月開帳あり ○本願寺法乗名所圖会持行 秋里籬島著 名村中和画

○十二月廿五日西人井川雪下園卒 名貢称源三郎坂本氏先なり 義氏

文化三年丙寅

三月より永代橋ふく成田不動尊開帳 ○同月より護国寺にて河内の国葛井寺 十一面千手 観世音開帳 ○三月三日江戸大火西南より東北へ飛火

○三月四日巳の九ツ時芝車町より出火坤巽風あしく高輪田町の通り三田薩摩家に延焼牟芝辺金杉 俗上ちゃ 異隅斗 神明宮前牟田川町通り左右出雲町行川町通教育所横町門内外本横町三十間堀材木町京橋より日本橋に左右に下位ッ日本橋小伝馬町内外宝町牟町通り西は塩倉町より三田町雑子町伝馬町新通横塩東は堀留町新堀材木町より堀町葺屋町新芝居町産は孫ると大ッ

富沢町横町辺横山町馬喰町辺神田川を越え西は伝久ッ町杉永町和泉橋に徒士町通り三味線堀廣徳寺前より町通りより東牟新ッ裏通追東は浅草御門外より新堀通り元ッ越東本所ッ若徳寺の辺迄焼亡世ッ品されし武家町家一宇も残る事なし 翌ッ日の昼に時ふいくりて漸く鎮まりし時大名隅田焼九右武里牟幅平均七十丈備後藩邸八十三ッ寺院六十六寺名所ッ神社二十除ッ所町数五百三十余町と唱ゆ又焼死溺死千二百餘人といり新吉ふ所ひ〜賤民に救の小屋十五箇所人逃ッ去ッふ憩ハしめ食物を給る時余の貧民つも来て銭をあたる 此貧途中ふみ拾を 此火災の時の雑説曳尾庵の家衣ふ〜〜ッ〜〜ッ〜〜ッ

○四月ッ日五日六日の夕二夜三日田向焼まて此度焼死の輩供養の事を

令せらる○四月朔日儒師古屋昔陽卒名昌称十二郎七十三才号羽柱林ると号す

○辯秀堂何某弁才天を信じ金光明最勝王経を書写し清浄の地へ納んとて上へ重き石を求しふそうじて亀の形しる石を得うり堅三尺横二尺江の移へ来納る○四月廿八日算術師小川秀蔵算昌卒中野宮泉ると号す葬る○七月大師の系弘法大師開祖○十一月琉球人来聘二度讃岐山王子副使小孫親方琉球人比嘉親雲上十二月二日終れり此年関東ときどき寒く雪烈しく雪地親方上老年病終りしといふ言伝大四ると蒸暑の時いとまあるまふそ思ふ○十一月十三日夜五時葺屋町浜蔵師匠丸名称の家より出火して堺町より大坂町表右衛門町鞍掛町駿河町近辺焼る

○大坂葺屋町の石屋甚義方焼る此火の芝居打出しの太鼓と共に焼出し家

○琉球人列伝の日なり

○大坂葺屋町の芝居焼る式火の芝居打出しの太鼓と共に焼出し家混雑いとん方奉一琉球人列伝の日なり

といふ者江戸へ引日本堤にて盗賊に遇浅草観世音の利益にて命の難をまぬかれるなり羽生文化四年法橋周南ちゝ其図を画しあ家あり掲く牛図又ると号す

一月四日芝二丁目より出火脇坂侯河岸焼

この時の町火消の大喧嘩あり

あり○近辺深世侍ふ改より○今年米穀豊饒にて価下落をよりて十月市中分限ふ應じて買米を命ぜらる○十一月十三日子孫師丸名権左衛門卒名利通牛込東町浄雲ると号す葬る

○十一月十四日儒師堵名明卒号洗園称十六才巣鴨東福寺ふ葬る○十月のはじめより菅原別社書画展覧の会を催し奉歌を張り新く鑒定を小紙ふ記し簡ふことあて後ふ到る

○江戸図副説写本成大橋方長著

文化四年丁卯

二月十四日明六半時東より西へ光物飛ふ○春雨ふく烈風の日多くふて火多し○二月廿八日より田向院にて聖人ふ勅院不動尊開帳廿二日江戸到着の日構中と号す

の誠給錫杖法螺の貝を持参延寿の事九千人計り次ふ山伏数十人兜巾袈裟にて二列ふ列次ふ大なる斧を携る山伏廿人計り法螺を吹く次ふ山伏八九人厨子弥宝を義せ其後ふ住職尊ふ乗り伊達ふて打物を持せ供奉の山伏大勢中ふハ異形の出立するもなり近来是程の江戸人の関帳にて去年の琉球人の行列より八殊ふ多し云あり又関帳終りて大後摩と号し天未の内ふ火を起し山伏大勢烈火の上を素足にて渡り行第代未ものこそ見物群集し境内混雑と怪ふ人多ありて程なく此事と止れり

○二月の頃より品川宿楊面の寺方　寺号不詳
といふに衣影対文　熟尺六尺七寸容色よゝ殊妙なる遊客多く故家日夜
繁昌せり　後二年を経て廢れたれども其本堂は今猶残存し後に番物を出す基盤をもく諸猫の灯を備へ仏像一華を献じ角て文字を
書かぐしらるゝあり　廣小路にも出てり　○三月朔日より永代寺にて相州鎌倉補陀洛ふ勧号大日
如来文覚の像開帳　開帳同じく信濃山権現開帳　○三月九日哉仙若市仙矢
楚満人卒　芝山光院　○三月十日より大塚護国寺開帳　○四月朔日より
湯島社地にて大塚大慈寺見耕菴火防造酒地蔵尊開帳　○同日より麻
布宮社地にて都鄙新竹村法華堂開帳　○四月朔日より浅草八幡
宮町大仏にて紀中山法華寺奥院祖師開帳と共に京都頂妙寺二天
王開帳　○当夏両国橋辺大川の流少し　○六月朔日二日大雨金銭傾るかゞし
○六月廿日中平井村百姓文吉といふ人の逆井村の川面にて蜆を取るとて

鎌の内ふ日蓮上人の像を拾て平井妙光寺ふ納む　○七月十九日より深
川浄心寺にて宗延山七面明神開帳　○九月始より猫死する事頻
○八月朔日より五十日の間湯島聖堂世話講開帳　今年洪堂修復成る会社堂の前にて
ある志を表す　○八月廿日より田向院にて谷通新町国通り黄金観世音開帳
○八月六日算術師荻田権平定資卒　号雄山　ロ谷西寺ふ葬る
○八月十五日深川八幡宮奉祭　蒲年ふ法しけるに十二年前より喧嘩ふて休みしに
雨天ふて十九日ふ延る同日蓬子の町より踊り練物ふて出る　江戸中い
ふ十及ぶ近在より見物ふて至る　霊巌島の出しねり地永代橋の
東詰ふて来りし時橋上の往来鎖　鎖群集の人芸中より深川の方へより
入る江三百社を崩れ崩れしより人数ふ崩れて流れ来るものもいくともする
事なくいふ上ふ手をうて落ちて水ふ溺れ助りしい稀ふて川下の方

屋とあり〻いろ〻ものを出すこと中に出でて是物を出すこと
家族の者に大方あらば新大橋の通路止りて西國橋を渡り迂ひを出る
りの昼夜引も切らず　官府より厚く令せられ水中死骸を引揚し
め男女老少を分ちて大坂に積送るを家族なるもの来りてあく〻野辺
送りをなす悲傷のさま目もかけられぬ事ともなり〻とぞ（溺死の家族貧窮にて殺の物あり〻〻）
この時類未曾有の洪水にて
是紙に委しく記せりとなむ　○八月廿二日　九ッ時過井橋辺古松大枝折る
○八月氷川明神社造営より年ゆかざるに崩れ〻り○此比西の方に常
星出る○蝦夷地騒動あり○一石橋の橋杭嫩木の樺なり〻〻一面に芽を
ふき雑草茂す○九月三日酉の刻に東より東へ光り物飛ぶ大サ鞠位
ゆく者多なり○九月十五日井田明神社礼所産泉寺三河町二丁目二十日
より子供お撲を出る○九月廿一日青山熊野社現象礼出し絵物出る

を後休む○十月四日茶人川上不白卒（九十三才号孤峯又田沢仙始不美と云千の如心斎の門人中古千家茶道の開基なり）
谷中妙立寺に墓あり墓石に文明元年生なるを彫ふ戒号を彫るしるる碑あり右に絶塵大居のかきりの剣を携へ以上に巨石をいてきたる
石像を彫りなの有あり　○十一月高麗海上あり蘆牟と云海獣を捕へり
○十二月一日官儒柴野栗山卒（七十二才称先輔号古愚又堀氏廃嶋に養る）　○同十六日儒師荻生鳳
鳴卒（名天祐孫惠右衛門三田に居るに養る）　○十二月晦日夜永田馬場火事

文化五年戊辰　六月閏

正月九日十日大雪降五十年来の雪と云ふ所折る○同月廿一日画人竹沢
蓉渓卒（名惟房浅草に葬る）　○二月朔日夜大雷○二月十三日狩野養川院惟信
卒（年六十）　○三月十七日より市谷柳町光徳院親世寺開帳（又文化七年午の四月も開帳あり）
○市谷井伊右兵衛子母沢開帳○三月七日画人岡田陶丘卒（去對の男なり　後尾光林寺に葬る）
○日蓮宗里に従一位日野資枝卿御寄の碑を建る（今年の正月之常丹水戸産江戸小川安宅の住人保延真と云人建る所なり）

来る日々一の里に花の咲そ絶雑業して住来を賞るよりて或の名ともしらん

あれ〻咲そ咲そ花の名をしらぬ名ふ日々一の里を来そ

○四月九日俳人杜露庵なる辞卒 越後氏大坂光徳院小義 ○五月十日より洪水大なるゆえ諸

物隆る祖師開帳○六月物旬より雨繁く降り十六日より十八日迄江戸

及近国洪水溢る米穀價騰し○六月貧民(住救米給せらる)賜ふ

○閏六月朔日より田向院にて葛西宇田稲荷の開帳○閏六月二日俳優尾

上松緑 六十四才 田向院より於て昔の俳優小そぎ小平次が幽魂を吊ふして施餓鬼

を修せむ人々群集せるるる騒しきして後彼の事を狂言に取組興行

しけるに見物山をなせしとよろこぶ事なりしに崇りなる事を忘れて其

后八月〻さるに名を唱へ此世を住はるる○壬六月十八日より

廿日迄大雨降再洪水溢る○七月田向院にて野州那須野光明寺蓮

社開帳○七月廿一日夜に入雷少し鳴雲六時より大雨魚を傾るが如し

○七月廿音昼九ツ時より南大風雨家屋を損じ怪家多し豆腐桶船

七十除艘覆る又酒船入洪絶て市中酒なし○八月田向院に於て昨年

永代橋水死の輩一周忌法事修行○八月ふいりても雨繁く降り七日

八日大雨江戸諸国洪水溢る○九月二日加藤千蔭大人卒 七十二才本所田向院に葬る

○十月芝金杉円珠寺七面大明神開帳○十月四日この日溶湯されば寿

を減じ又即死するよしなれば半銭入湯する事なし元文元年の例もかゝる

事なりしぞ○十月十日書家細井錦城卒 名知雄称茂右衛門廣澤の孫なり 茅場町村法恵寺に葬る

○十二月十九日書家服田赤峰卒 名順称卯右衛門 麻布園林寺に葬る ○

文化六年己巳

正月元日大風雪六時巳左内町より出火して万町四日市小伝馬町照降町

新材木町堺町葺屋町高座芝居猿若町高砂町元濱町辺武家方まで
焼る同国薬研堀矢の倉諸所より飛火して本所表町辺焼亡し夜九ッ
半時鎮る○正月雨降らず日々烈しき風吹して火多く災多かり○二月永代橋
新大橋大川橋受負人止み菱垣廻船積仲間引更に成り渡船止む
○二月五日昼九時牛込火消屋敷より出火当町の東迄焼亡武家方多く焼る
○二月十日より日暮里妙隆寺祖師開帳○四月より深川徳願寺弥陀如来
開帳○三月廿四日駒込円宗寺にて八百屋お七が百廿七回忌法要あり 細面像ハあれと来
諸群集夥し寄詳姓の墓修造する所といへり ○四月二日儒師伊東藍田卒 名亀年称金蔵七十八才駒込吉祥寺中洞泉寺に葬る男を
数能岳といふ称を杏く ○四月より七月迄江の島弁才天岩屋弁才天開帳あり江戸よりの
参詣夥し江戸中にても所々弁才天開帳あり○五月六日儒師泉豊洲卒
五十二才称斧太郎名世達 浅草光明寺に葬る ○六月五日より田向院にて常州真壁郡社玉明神

開帳○六月廿一日官医桂川甫周卒 五十六才名国瑞号月池老人 二本榎上行寺に葬る ○六月初旬
草加在文殊村なる院境の松へ木槿の花多く咲けり江戸より見物人多かりし
○七月横堀神明宮の内にて武州御嶽山開扉○七月十九日より本所
本佛寺にて甲州石和遠妙寺祖師開帳○七月深川宜雲寺に於て英一
蝶の草塚を築き碑を立る 市野光彦文を撰し英一珪これを建る これは一蝶寓居の所なりし故なり ○八月廿三日夜
亥の刻より廿四日迄大風雨家屋を損る事夥しく火の見の半鐘を吹落し
伊豆房総漁人多く溺死し○八月下旬者成田朝辰鈴ヶ森八幡宮境内
小狸塚を築く○今年諸國豊作也○九月朔日より三十日の間牛込岩
戸町南蔵院弁才天開帳○浅草報恩寺田原町向より今の所へ移る
此時東本願寺の地所廣がる○九月五日詩人谷林麓谷卒 八十一才名本脩称十次郎西人文堤の父也
浅草深宣寺に葬る ○九月五日儒師篠本竹堂卒 名廉称久二郎 四谷東寺町栄林寺に葬る

○湘市日記三巻写本成　右田中畝先生公用ありし時の紀行　○十一月三日大雪　十二月近解ス

文化七年　庚午

正月廿日より浅草大仙寺ゟ依渡塚ゟ根本寺ゟ祖師開帳　○同廿七日牧野家小野蘭山卒　八十四才（一説に六十七才とも称す）　浅草豊島町ゟ葬ス　○二月廿日より川口善光寺如来開帳

○二月廿五日より平河天満宮開帳　○三月七日より田向院ゟ越後国飛脚ゟ大日如来開帳　○同十日より浅草五泉ゟ出て鎌倉松葉谷長楽寺祖師開帳

○同十五日より石原徳水寺大天開帳　○同十三日より十九日迄浅草唯念寺ゟ出て同廿一日ゟ廿七日迄溜池弘泉寺ゟ出て四月朔日より七日迄浅草称念寺ゟ出て小野高田山如来開帳　○三月廿日ゟ比丘尼不移尼ゟ浄瑠璃行本住太夫死　築地本願寺中基隆ク葬ス　○四月朔日より浅草折橋荷物稲荷ゟ出て新曽姫観音寺祖師釈迦如来開帳　○同八日より深川浄心寺ゟ出て新麻布裏住卒　七十七才　金吹町ゟ住ス　浅草の孤の墓ゟ出て生上方　○六月十日より田向院ゟ出て

嵯峨清涼寺釈迦如来開帳　今年ハ例より来詣多し　○六月廿二日廿四日白金覚林寺ゟ出て清正公二百年忌供養開帳　○八月朔日より護国寺ゟ出て信州産光寺ゟ出て善光寺如来開帳　別当産光寺　○九月十九日加茂遠摩歌卒　七十六才　この翁ハ狂歌堂ゟ藪の一人ゟ出て丹青を善し俳文を以て仏像を画く人之服部坂能登ゟ出て寛政八年成就し来る五百羅漢ゟ出の像五十除幅あり大典禅師これを賞し　文化二年災後五年目ゟ出て成就せり　○十一月十六日東本願寺御堂再建上棟の式あり　今日高貴の男女来詣より群集し供物飾物ゟ同じ繁ゟ出て斗り多り　○此冬マグロの魚漁ある事稀し　総豆腐の三分ゟ出て棟梁を石塚志摩と云ふ　一日ゟ一万本を獲るといへり　○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒　名蠡号鬢髪　下谷養玉院ゟ葬ス

同　八年　辛未　二月同

春冬より雨多し　正月十七日雪　十七日大雪　○四月廿四日晴ると雖ども浅草芽町二丁目裏より出火表通りへ出て裏河岸柳橋万八楼迄焼九三町ゟ一町程ゟ早来度くなる為　○二月十一日契風申刻市谷谷町会仏坂

より出火四谷赤坂麻布西窪飯倉赤羽橋上ち文院焼亡八代吳服
て死亡の者二百餘人と云〻○二月十三日村田春海卒 六十六才 錦織史一名琴後為称 平田篤胤と云国学者也也〻私家也
よく代筆書一覧云寛平中の新撰字鏡を購ひ[illegible]より ○二月廿八日より牛込若宮八幡現
世に弘くるの書法が賜へと云〻 [illegible]
開帳○同二月十日より根津社内観世音開帳○同十八日より護国山内
秩父札所観世音開帳 [illegible] ○同晦日より牛込長命寺弁才天開帳
○三月十一日より池の坊寺にて弘法大師開帳
○三月十六日より永代寺にて信州戸隠神九頭龍権現開帳 別当 顕光寺
○四月初旬より風邪流行 「人のあり小袖の裾拭髪くちまり風さえ遠き山の月」 蜀山人
○四月朔日より四天院寺にて弥陀如来開帳 [illegible] 天満宮開帳○同日より芳町
某師匠にて新座郡吹上観世音開帳○ 四月十日永代寺境内小豆屋の娘や弟後縄 [illegible] 焼死二人と
[illegible] ○深川仲町蠶繰葬とい人天麩羅にてしりとりひとりて物をて黙居本を

造りて[illegible]る○四月廿六日牡丹師千種庵恒海卒 九十一才 弥山中要助号霜翁と云者称あり 今戸称福寺に葬る
○五月十日より四天院にて河内国垂井八幡宮開帳 [illegible] 途に出る ○同月廿三日より
浅草新堀正行寺にて常陸大塚村正行寺の大蛇開帳 [illegible] 観世音上人像開帳
○七月十六日より湯島明神天満宮開帳○七月四日夜人魂有輝卒 [illegible] 町名法華 [illegible]
○七月廿一日儒師宿谷宣卒 名愼称表之丞 白泉と号す ○八月上旬桑夜雷時小の方常星飛
出る 上旬八西方[illegible] 又曉方東[illegible]る ○九月二日平川天神新武蔵国[illegible]より失火烈風あり
為例五丁程焼亡○十月二日儒師[illegible]見星卑卒 名允禄三郎太郎つ 京二条 [illegible] 松深寺に葬る
○十月廿八日東本願寺にて[illegible]成就法体供養虎傷者楽[illegible]諸人騒〻今
年開山五百五十年の遠忌○十二月十二日暮六時過南伝馬町三丁目より出火乾
風の中通り一出河岸一焼抜本町河岸迄出夜九時強る九十二町程焼亡
○十二月二日書家荒木適斎卒 名[illegible] 九山と称す ○十二月十日夜九時過浅草柳稲

荷裏通りより出火あり小風強く移り阿部川町より三筋町を越えて西福寺唯念寺焼る○同刻小川橋向より出火殺洲の辺と移り焼る

○江戸哥舞妓年代記刊行十五巻　立川焉馬作三座芝居の基立ての記録なり今年より十二年迄追々ふ下行る

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺にて開山忌拈佛阿弥陀如来開帳○三月三日より浅草長谷寺ふく京清水に擬せる開帳　赤清水　高人仮や彩を列ら○三月晦日より洲崎弁天開帳○三月より池の坊専応ふく佐渡一の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日より押上春慶寺菩提井開帳○高麗木下川清光寺衰ひの通橋樹を多く載る○四月廿六日三島自寛卒　六十八才名景雄称吉左衛門三島中島佐渡学和学者也又能書あり浅草彩雲院墓ふ葬る

○五月十八日より芝愛宕山ふく下総義寺の北山卒　六十一才名信有称義六小石川系明寺会ふ葬　○五月廿五日観相名人石竜子法服卒○七月大水

ふく切ふあり○七月八日法如英慶和上迂化　浅草村宝泉寺ふ葬る　近世の頑徒之世事○八月廿七日浅草花市場通金竜寺　浅草観音ふ葬る○八月朱卒那寺中極楽寺ふく越後浄興寺宝物を拝せしむ○九月巣鴨深井の植木屋ふく業の者を以人物を数何れもふく色々の形を造りふく諸人ふ見る江戸中の老幾日毎ふ群集して見物しられい年毎ふ盛ふあり九十除り不ふ及ふ文化十三年迄ひろしぶ支より後造物ハ止ふり　此時業の尚分業内記伶美紙の教ふあり　抱一上人植木屋何某ふ座中の作り菊を識りふ　又劣りしふの多ふ移や造り業

○九月二日下総国和馬形義代宿百姓忠義張と八才ふく男子を生母子恙ふ〜○十一月四日八宝内大地震　ふく土蔵毀を用水桶の水と化ふる様　品川新宿川辺迄強ふ倒傾怪ふ人多〜

○十一月十七日書家田中道雲卒　天巌ふ葬る○十一月廿一日夜五時ふ龍泉寺村より出火南列風ふて吉原新町へ火移り焼ふ夫より西ハの

風にあふり田町へ飛火して百観音辺一口は瓦町山の宿の辺迄都て焼失し川を越て本所番場町の辺少し焼る
吉原丁仮宅田町聖天町瓦町山の宿三ノ谷深川に六ケ所にあり翌年八月元地へかへる
○此秋青物町二丁目三丁目河岸の西の裏手に上水の溜りを引て瀧をおとし玉石藻と号けて一丈五六尺幅を落したり左右に山を作り四時の花木を栽て側に茶店を出し往来の人の休み所とす天保の始より廃す
深山より落くる瀧の玉を見れば本にてみる所に雲月のさし　蜀山人
ふかく見るにも青物の売ものみなれて庵の岩浪　縣麿
○十二月十九日書家篁田牛山卒　号福寿斎　麻布宗巌寺に葬る　長男松年は号吾名猶号徐山と云　○十二月歳寒にて両国川氷あり○十二月廿九日夜五ッ時元飯桶町より出火西北烈風にて佐る町より京橋竹川岸金六町迄焼亡○此頃カラン糖といふ菓子のくはしをうり賣街をあるく
蛇の目の紋付たる袖をきて菅笠をかぶり細袋を背負太声にカラントウと呼歩行浅草並木町に舗を出せしが百程なく廃せり

文化十年癸酉　十一月閏

二月二日夜九時过三河町弐丁目裏通より出火して武家方四軒程三河町一丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町都て焼夜明て止む○同十五日夜亥半刻下谷御成道黒田豊前侯の南隅長屋より出火烈風にして石川侯御屋敷を吹越し丸一茶店の裏につきて左右にひろごり向側より仲町南側残らず焼失池の端裏通り加藤侯長屋迄西は三枚橋向料理屋松坂屋の側東は呉服店松坂屋の側も上野町山下を焼る○三月より浅草寺念仏堂にて常州鹿島大神宮不断経所広徳寺赤童子開帳○三月八日より池の端音羽町二の江妙勝寺祖師開帳○二月より隅田川木母寺奉納梅若丸像開帳○三月菱垣廻船積仲間十組問屋株式定る
この時の人数千九百九十五人也
○三月廿日より大久保西向天満宮開帳○四月朔日より今戸八幡宮開帳○五月九日より浅草矢先本覚寺祖師開帳○夏芝愛宕山

梅現開花○五月愛宕山別當因福寺火ル長鬚會あり秋田侯の侍醫大関
大中といふ人和この鬚ながき老人を集めて書画の會を催ぶしあり
七十まさりの翁と覚えてこれまたちれ自をあらそふ
○五月廿日より五日の間九代目森田勘弥壽狂言興行○五月廿日狂言師子柄
岡打卒 七十九才 平沢氏名常冨号月成 任名氏二次深川淳名る中一変流ニ奉
○夏淺草の老女弁天の池に水車を仕掛人形を
用ずして人形を踊らせる物を作る見世物出る○六月二日より田向院にて
常州筑波山權現開帳○六月初旬より蕎麦を食へば死るといふ
俗説行れ蕎麦屋更に售ひあへず○八月八日書家大槻重雅卒 浅草西福寺中
右の院に葬る
○十月廿八日俳諧五松崔林翁卒 羽州出羽国米沢の人寛政中江戸に来り来師
性とかろく五松を氏とし再江戸に帰りて坊城菅亜相若は菅家の学法を授り菅家の
形を中絶せしを教授す今年七十一才にして卒し本所
○十一月九日明六半時東より西方へ大二天狗の光物飛ぶ 武州生麦村の辺に落ちて蜜蜂
の如く大なる野蜂の如き物ふ

しく肉翼ありて
ぶとのごとし ○十一月廿八日夜九時已刻川崩橋向出火三町の除焼亡せり
○同月廿九日夜宮松町西側より出火西風烈く竈河岸に出火小風ふかり
和泉町東側より久保町横町葦屋町高座の芝居雑波町より町家物町
稲荷の姫酒井侯邸中きふ迄より翌朝六時迄焼亡す○十二月二日巳刻六時
より花川戸町吉年焼残りしる家と吉妻橋際迄焼亡数五十除日雨
くに日くふ火ル○十二月四日官儒尾崎二洲卒 六十九才名孝榮林氏分
大阪出硫島ふ葬ル
○十二月六日書家松會卒陵卒 七十三才名芳文称三四郎 浅草ふ住安ふ葬ル ○吉原焼町八年ぶ切ふ
ありて仮りしる今年地を娼家の居宅に囲ひこみくより町名を唱ふる事なり

文化十一年甲戌

正月十日夕七時已刻俄ふ大風吹来り和こ家屋を損ル此日初卯也亀戸
妙義社来清祭をなしけるが此暴風ふ家根舟牆牙舟数艘没し人多く

死す 亀沢町にて侍一人空中に吹上られ死す わづかをおいて大地へ落る ○正月十四日暮時八代洲河岸より出火

○正月廿五日亜三松田亀玉卒 号清風鈸 駒込土物店 高林寺に葬す ○二月深川砂村元八幡宮より手前四五町の所雑木の八重桜を栽ゆ毎年遊観多し

○二月二日より十五日の間河崎弘法大師開帳 ○二月朔日より永代寺に於て成田不動尊開帳 芋洗坂大地町米俵造り物出来鄙しからぬ 目録に絵を加へ板行して売歩行けるを下まる ○三月三日より回向院にて下総国稲村弁財る不動尊仁王尊 大九尺程 開帳 ○三月六日夜大雨大雷に而霰降る ○同八日より押上法恩寺にて京本国寺祖師大黒天鬼子母神女釈尊清正公開帳 ○三月十日書家佐野東洲卒 名潤 称新助 正定寺に葬 ○三月十八日より六十日の間浅草観世音開帳 寺中境内の神仏 三十三年目成開帳 ○同廿日より御蔵前八幡宮にて根津子権現開帳 ○四月朔日より渋谷金王八幡宮開帳

○四月朔日より下谷正法院稲荷明神開帳 神田平永町小柳町より大サ九尺斗りある鈴にて造りし物の額と鍵の額とを納む細工人

舟月の門人 ○浅草に於て薪を用ひずして 自然に沸く水の釜を見せ物とす ○同日より浅草金蔵院にて安房誕生寺祖師開帳

○同二日より中野宝仙寺にて不動尊開帳 ○同八日より四谷新宿にて安房稲荷本地十一面観世音開帳 ○同十九日より西新井弘法大師開帳 ○四月より七月中旬迄江戸及諸国大旱魃 都下門に松竹を建て疫を禳ふといふ初春のごとし ○六月十八日百瀬流筆道の師耕元卒 号程耕雲 門人多し今年七十八才赤坂法安寺に葬す 門弟子三千人に及べりといふ ○七月朔日より回向院にて河州壺井八幡宮并権現開帳 ○七月京都上京羽村桂姫名代何某 官許を得て勧化の為武家町家を巡行す ○七月頃より徳本上人小石川伝通院にて諸人に十念を授くる 毎日参詣の群集夥し

○秋護国寺観世音開帳 ○十月廿日夜上野御本坊火 ○十月書家田中玉峰卒 名ハ則 称収蔵 ○十月より浅草寺奥山へ謎坊主といふ者出る 紙に謎かけを出し十八九才の盲坊主なり座にありて人よりかけさせて即座にとく 若解得ざる時は人に其をあたへ 米俵菓子器物など飾りおきて与ふ 奥州二本松の産なり

て名を書るこの人書の雪の如く継ぎて解くもしん是七学ひとりの向あるいも出されとなれ
ゆゑ及ひさしくあり翌年来春うけさるべきの霞ふ遠をの雪さとなりて笑ふ山く　曳尾庵元亀

○十一月七日儒師中島豊洲卒　名幹　称周吉　七十八才　○十一月十七日俳人建部巣兆卒　号松商　秋香庵

浅草日輪寺ふ葬る京の蕉村と志をしるべくなり　○十二月七日夕七時聖堂の内学問所火

彼ふ似る英草の画賛多くなり

○墳墓圖志三巻写本成　一名秋風抄作者ふ詳

江戸諸人の墓碑をあつむ

文化十二年乙亥

正月廿十月六日より雲霧多降　二月十日迄　大雪江戸と城路の入ること　廿八度ありよし　毎年ちがひもなきなり　牛尾説

○三月十一日より中山法花寺奥院祖師□忌開帳　○四月朔日より

鷹尾天現寺毘沙門天開帳　○同十五日より江の島上の宮弁才天開帳　手水堂

○四月日光山二百回御神忌御法会　○六月朔日より田向院にて秩父大

日向山大隅寺　妙法伝大士開帳　○六月二日　抱一君尾形光琳の百年忌修ら

○六月廿五日書家浜辺東海卒　名彰　称文平　浅草祝言寺ふ葬る　○徳本上人伝通院本堂ふ於て

濡ふ大日堂再建　○今年ふ肇り朝鮮の異ふ院ふ於て文政の始を都下の貴賤

園ふ載て盛ふ移して延命を設く　中ごろ八年の頃ふくはまりて　牛ひく花のさかりなりけり　遠橋山人

○七月朔日ふ田向院ふて甲刃善光寺如来開帳　○同十六日より下谷徳大寺

薬師ふ天開帳　○七月廿一日長遠寺ふて総宗谷法蓮寺祖師開帳　○同日より

浅草金龍山ふて出羽国湯殿山黄金堂ふ於て大日如来開帳　天宝ふ茶釜ふ書て手紙の

用ひる　○十二月雨森牛南卒　字才名京真一号松蔭　医ふして詩を善くせり　○武蔵野話刊行　不忍村　秋篁崔駱英

同十三年丙子

八月開

正月廿日奇人安田躬弦卒　号棗本　称一菴　沐川子慧然寺ふ葬　○二月十三日土肥鹿鳴卒　七十餘才　名重雅　秀太郎　易学ふ

奉ること人なり　芝金比院ふ葬　○三月二日より本下川浄瑠璃師如来開帳　○三月十日ふ田向院にて同

毛祐元寺ふ於て開帳　○三月十六日より浅草ドブ店長遠寺ふて鎌倉市学ふる祖師開帳

帳　○同十八日より湯島社地ふて野島浄瑠璃開帳　○同日より池の端ふて

祖師開帳○四月朔日より護國寺にて相州松本親世寺開帳○四月廿八日より浅草
石法華寺にて池上猿屋の祖師開帳○初夏より江戸疫癘流行人多く
死す○九月三日朝葺屋町桐長桐屋居宗長十二歳 折る 年卯年 国年歳焼の翌年寅年の
朱印元年 朱海元 摂州那十里川村松山の神の神木
を切て宝とし居る元角ふ芝居不動昌ありしバ神の祟ありやあんと人々ひひあひる元芝居休の日
傷を結しを神経せしの折ふ風もありしふ芝居ふ自然ふ折ふうまれど怪家人ありて
○九月三日申刻京橋京町三丁目より出火一廓焼亡 仮宅田町五丁目山の宿町 ○九月十七日
両人鈴木芙蓉卒 六十八才 名雅一号花蓮 浅草鈴ヶ町大仏ふ葬 ○紫ふると始て流る 藍の花紫ふ
咲る 仮宅 ○六月十八日より田向院にて府中深大寺元三大師開帳○閏八月二日四日
大風為人家を損し樹木を倒す江戸中外出水 東本願寺の楼閣倒る 本所深川の辺
家一帯上へ水なる
○九月七日戯作者山東京傳終 岩瀬氏名醒 称伊兵 卒六十 田向院ふ葬る ○俳家奇人諸特り 聲者玄一 編集
○九月梅花返て咲る○九月以夜ふ入ていつくとも分ず物子を元り太鼓を打る
ものあるといふ○九月廿二日より幸橋御門外鼠地ふ於て親世寺支 泰 陸賜 勅進開
帳行わり 月数の時天十五日を期とす 奥彩の号 場中より出スして 寺号 拝領 楽屋一系ふ院を以再ひ芸活をなして 毎年一聖年九月ふて行る ○十一月十九日俳人
不随亦歳美卒 信濃井筒屋八郎右衛門 東叡町蓮家寺ふ葬る

文化十四年丁丑

正月十二日暁八ツ時雨中彩色物所南例より出火芝居焼亡宗代町より飯町
表丁筋一町人形町通り焼○正月中旬俳師葉雲庵年八十卒 世喜の家五代 ふ於野ふる 白中ふ最早死彩の
結ひしふ表ふ入りといふ ○二月九日両人金子金陵卒 名元圭 ○三月朔日本所法
恩寺祖師開帳○同二日より永代橋ふ八丈流る為新川新開帳○同日より葛西花又村
鬱大明神開帳○同三日より青山長光寺ふて雑波堀江新院如来開帳○同十日より
十五日より浅草寺観世寺開帳○同日より浅草玉泉寺ふて初詣 [illegible] 寺天拝祖師開
帳○同十日より浅草大仏寺ふて弘州海長寺新居祖師開帳○青山梅窓院泰平
親世寺開帳○四月朔日より芝神明宮池内にて

相模梅澤吉妻於現病歿○同日より石恵他兵衛天門を上州狩田医師旭
某師如来に歿○同日より同志鱗某師如来開帳○四月朔日萩野橋谷為平
時谷為吉信敏天黒孔平と号し俗称藤内と云雲丹屋の史伝之形年西丁不谷器宗る次業に神
佛千社参りと号して札を張る小幾年のうち前先七分て数十次の古板の盆根くとしかも安くえる
又武人より始まり此の寛政の比より張り天保の比小盛りても林盛りしく業を結び辻祭り壮観なる
童社といふも悔るるものくらの札を粘付をーきふのうくれ矢立の筆をもて大幣小幣にも有り天保
ようこれを禁ぜられしより ○四月十七日官医板田元伯卒 七十八才名興号艶秋
完来卒 七十 ○五月四日官儒古賀精里卒 六十八才名樸称弥分 大槻氏廃畠小菜氏 ○五月より七月まで
江戸長雨洪水大旱○八月九日官儒岡田寒泉卒 七十一才名恕 称治助 ○十月廿六日最上流
算術の師會田算左衛門安形卒 七十一才 会田故卒の門人之文政二年癸卯十月廿三日歿小 ○同日
浅草の人 ○同日
浄瑠璃語十寸見河内死 山谷太夫院小太夫氏死後称し七世河内を襲ぐ氏は系の名花小路 ○十月廿二日晴天未刻江戸
市中雷鳴の如き響あり七光り物空中を飛ぶ武州八王子横山宿の畑中に落ち
長三尺幅七尺厚六寸程隕りくるなり

此年間記事

文化の始より淺草寺七月十日の四万六千日赤き蜀黍を雷除として商
ふ始る○淺草の奥山に社祠現の后人麿の社を建る社辺小山次萩の枝を載
景色を造れり○目黒村小富士山を築く○日蓮里青雲寺の布袋尺巨像を
修性院に移る○和合神の画像始む 其図人の初つ形なれば近比流行の活絵の
錢隨亭高辛書寄寄宰吉北図と云り貴人も常小床小掛られ大観平次郎盤が傍裏に行しに浅人朱
析拾小和合神のなを問れい活絵をそい寺山拾得ありしとひつくふ一若くるなを月人の瓊浦華話
小載せり又清人蔣士詮の忠雅集小画和合神の詩ありて寒山拾得の二人のなとせり荊山先生の
編輯燕居雑話小ありく
○叶福助といふる泥塑人を作りなりてなやせり 是小昔よりありてなそ三年二月廿六小對
しつつりまうけしりのあり
○江戸板田邸國友村鉄炮鍛冶國友藤左衛門能当といふ人業学の醫師山
田大園小従り蘭人携来る所の鉄嚢中に風を縮め火薬火縄を用ずして
風の勢を以て放つの鉄炮に別小新意を加へ又火を凝らし風銃又雷銃と号し
て製造始む 蘭名ウインドルウルと云文政のそのより世小行る様る小薬製のりの名
一發ごとに和製は二發三発小及ふといり

○文化七八年の比より石菖蒲の異品を玩ぶ事盛ふ行れ鬻ふ行れ栽ふ倍し生徒これを賞玩ス　所謂赤根二種黒竜芙金虎斑翠紋等也是及蒼老有極川ふ宗浦菖蒲豆山虎の巻狗雲貫衣之下天鵞絨通絲青葉翠入等と号くの品なり

○当時代名家△儒家・山本北山・毛田明倫・太田錦城・朝川善庵△詩・市河寛齋・大窪天民・館柳湾・菜地五山△書・輪池屋代翁・中村佛庵・渡辺東河・恭星池・関克明・松本竜洋・董堂敬義・中川由義・二井親孝

△狂哥・芳新・蜀山人・六樹園　改盛・文々舎　鼎子丸・三陀羅法師・千首楼堅丸・鈍々亭和好・琴通舎英賀△俳諧・祇田房小知・宜麦・自然堂風朗・不随・成美八朶園・蓼太・因喜庵護物・小義庵碩嶺△画・狩野伊川院法眼・同晴川院法印・同英川・彭信・北一・谷文晁・同文一・依田冨谷・英一陸・長谷川雪旦鈴木南嶺・大岩雲峰・春木南湖△鑄物師村田整民△碑碣彫刻窪世祥△金彫・江戸紙屋久△刀鍛冶・水心子正秀・手柄山正重・大慶直胤・

△蒔繪師・原更山　羊遊　改・坂内寛哉△浮世繪・葛飾戴斗・歌川豊國・同豊廣・同國貞・同國丸・歌川国芳・柳々居辰斗・柳川重信・泉守一　諱名日吉・深川秋堤・多田琳川・磨菊川英山・勝川春亭・同春扇・葛飾北斎・川英丸△花形と

いふ俗称の手法行はる○神乃藻歌・薇田伴勢義・龍文・部日向行りる○ふく袋形和年々ふ減ス○南瓶人八十爲冨五郎不白の門ふ入て茶事を

よくス　根岸　○根岸田先生庭中長廿七百横巾天除の義概あり一株の名樹あり文化の比迄ハ盛の比枯下の雑人どふ集ひしが惜むべし文政始の比枯果ス○尾久村深山吉林といふる人の園中ふ牡丹数株を栽培花の比

ハ物ふかりしふ文化中より絶ス○文化の末大坂の竹ふ洋変ふ生江戸ふ移り樣庭ふ於て咲れをふせり　文政中迄江戸ふ○立川馬場哥の廣ふ

起ス三笑亭可楽朝寝坊夏楽出て孫盛ふ行る○狂言狂の模様遠州紙

子の種粉又伊勢漆とゝ云ふ漆物をつくる伊勢漆といよ〳〵業ふ比〳〵る名あるべし○文化の始より厚紙
紙ゆる豆州熱海旅舎のなりて今井某これを製し始め江戸へ出して商りむ
○和製唐紙始る　懐中の人朝四郎我樂通称中川彼右衛門とのふりのくゝ出し若者の江戸へ
下り下谷弁天辺に文化三寅年集　官許を乞て生涯文政十戌年
深川扇橋小寅地を買求てすゝこれを製せしめて世ふ初ふ又後十年横五寸の紙を製して宝暦
紙と号く天保元年寅十月六十八才ふ〳〵く終りぬ
○ギヤマンの器物を製し始む其製前未のりたふりそうぞ○琉球扇すや
ひ出る○居風呂の鉄炮ふ火を焚て湯の中へ金魚或へ緋鯉の類をそそ
しての色物とする由國淀芝河原ふ始ふ
○砂村王地稲荷社へ疫疫を患ふるりの形彫して夫驗を得るよしみて
来詣する事始る

武江年表巻之七終

国立公文書館 National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan